

2021年11月

No.8

つながって → ひろげる

## 新型コロナウイルスと私たち

共同代表 山中和彦

崖から落ちるような勢いで新型コロナウイルスの新規感染者の数は急激に落ち、しばらくその数字が続いています。「喉元過ぎれば熱さ忘れる」と言いますがこの2年間近い間、どんなに大変だったか忘れてしまいそうになります。飲食、旅行、医療、介護・・・いろんな分野の方が私たちの想像以上に苦労されたと思います。

私たちのような市民活動をしている者にとっては、緊急事態宣言や独自の宣言とかでいろいろな会場が使いなくなり、打ち合わせやイベントを開催することが難しかったことは、活動の体力を奪うことになったと思います。市民活動は、活動を通じて市民の理解を得たり、仲間を増やしたりすることができます。会えないことで休眠状態になることは市民活動が停滞することになります。市民活動や地域活動を築いていくのには何年もの時間が必要ですが、壊れていくのには時間がかからないので、なんとか工夫しながら活動を継続していく必要がありました。

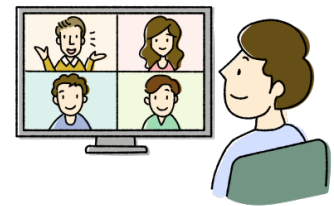
私たちは、リアルで集まることの意義を100%カバーしてくれるわけではありませんが、Zoom ミーティングなどのオンライン会議を活用してきました。リアルの打ち合わせ会議を代替するためでしたが、代替するだけでなく、移動することが危険を伴ったり負担になったりしている障害のある人にとっては、出向かなくても

会議に参加できるのはありがたい面もありました。

一方で、社会のデジタル化が進む

とデジタル・デバイドといわれる「インターネットやコンピューターを使える人と使えない人との間に生じる格差」が生まれます。ワクチン接種予約の時期に、多くの高齢者が困られたことは大きな教訓であり、そのことを忘れてはいけません。私たちの団体でもオンラインで会議をするためには、さまざまな配慮が必要となっています。

今年は、一年遅れでオリンピック・パラリンピックが行われました。よかったところ、残念だったところの検証もなく過ぎ去ってしまった感があります。開会式は障害者差別をしてきた人がイベントに携わってきたことで混乱しました。閉会式は、「片翼の小さな飛行機がみんなの応援を受けて最後は飛び立った」とのストーリーはよかったとの声があります。これについてバリバラの玉木幸則さんが可能性や多様な生き方があると伝えるのであれば、「別に飛べなくてもいいよね」という見せ方もあるのではないかとおっしゃっていた（朝日新聞デジタル 2021.8.28）のが印象的でした。



## ●東京パラリンピック2020の感想

賛否両論あった中で、パラリンピックは開かれました。今まで本人はもとよりご家族や関係者のみなさんの並々ならぬ熱意と努力を披露する場があって本当によかったと思います。お疲れさまでした。

(60代 ボランティア)

競技の結果だけでなく、競技のルールや障害についての説明も、丁寧に取り上げられていたように感じました。選手のみなさんもですが、大会運営に関わったスタッフのみなさんに、本当にお疲れさまでしたと伝えたいです。

(N)

スポーツが苦手な私は、何を見ても感心するばかり。スポーツに限らず、好きなこと・没頭できることに出会えることは、障害がある人にもない人にもステキなことだと思いました。

(60代 福祉職員)

TOKYO2020 は開催まで様々な不安点がありましたが、やはり始まってみますとアスリートたちの素晴らしいパフォーマンスに魅せられましたね。特に自国開催の良さを感じたのはパラリンピック競技の解説放映が多く、沢山の障害者アスリートの熱意を沢山の人が感じれる機会となった事です。画面越しに応援したその気持ちが育ち、我が町で身近に出会う障害ある方への理解へ繋がれば、この前途多難であった TOKYO2020 は成功したと言えるでしょう。

(しきの会 関靖子)

こういうことが自国開催って！今まで知らなかったパラリンピックの世界をたくさん知ることができた。毎朝新聞の番組欄をチェックして、パラリンピックのはしごをしてました。

(60代 主婦)

水泳の肢体不自由な方の泳法に衝撃を受け、ボッチャの頭脳戦に感嘆しましたが、陸上はスルーでした。なぜなら…義足を優劣？に どうしても違和感を感じてしまって。パラリンピックの感想は…その程度ですが、終了後の新聞記事に「多様性を考えるなら、オリンピックの中で皆と一緒にやれる方法とか、部門別にする方法がないものか」という意見に同感しました。

(もよ)

あまり見てないなあ。余裕がないからかなあ。

(30代 育児中)

知り合いの親戚の人が、車いすラグビーの選手として出場しました。それまで話題にならなかったパラスポーツの輪が、笑顔とともにあちこちで広がりました。すごいです。恐るべしパラスポーツの力！

(50代 元保健師)

ボッチャがすごかった。なんであんなボールが投げれるのかな。やってみたい。ボッチャの試合をみてみたい。

(小学生 女兒)

推しメン、見つけた！かっこいい。これまでのひたむきに挑戦してきたことがイケメンに磨きをかけてる。ビデオで何度も見返したよ。

(60代 主婦)

東京大会をきっかけに、ボランティア活動を応援するポータルサイト「東京ボランティア レガシーネットワーク」ができたとニュースで知りました。大会は終わったけれど、オリパラを通して生まれた優しさや温かい気持ちが背中を押し、新たな活動につながり笑顔が生まれる。そんなことを想像し、自分もまたがんばろうと思いました。

(ひら)

## 小牧市難聴・中途失聴者協会



▲犬山市民交流センター「フロイデ」で開催された交流会。当会からは7名が参加しました。

コロナウイルスの感染者数が減ってきて、少し外出気分にもなりますが、まだまだ油断はできません。3密対策をしっかりと、1回でも多く例会をしたいものです。7月は「遊字で暑中見舞いの葉書を書こう」。久しぶりに会う会員と作品作りは勿論のこと、おしゃべりも楽しみました。8月はお盆休み。9月は緊急事態宣言中で休会。10月は例会を兼ねて、犬山市で行われた愛知県難聴協会の行事「耳の不自由な方の交流会」に参加しました。犬山市や岐阜県から参加者があり、多くの仲間とおしゃべりを楽しみました。

11月に「オンリーワンの手帳を作ろう!」、12月には「耳の不自由な方の交流会」を予定し、市広報に案内の掲載をお願いしました。また新しい難聴者に出会える嬉しいなあ～と思っています。1月には、新年会を皆さんで楽しめたら良いですね。

10月31日投票の衆議院議員選挙の政見放送について。小選挙区には字幕が付いて、比例区には手話は付くのに字幕が付いていませんでした。手話の分からない難聴者は切り捨てられてしまっていて、とても残念でした。(古木)

## 小牧市肢体不自由児者父母の会

9月18日(土)、全国肢体不自由児者父母の会連合会の全国大会が東京で行われ(You Tube配信をメインに、最低限の参加者のみで開催)、来年、愛知県で行われるため勉強に行ってきました。

今回はオリンピック、パラリンピックの終了直後だったこともあり、講演の内容も「住み慣れた地域で共生社会の実現!東京オリンピック・パラリンピックは私達の暮らしに何を遺したか」でした。特別支援学校の学生(車椅子の生徒)が希望者は観覧することが出来たそうで、大変貴重な体験をさせてもらえる反面、感染拡大地域ということで本人、家族への丁寧な説明、聞き取りのもと希望者で行えたそうです。ただ、選手側にはユニバーサルベット付きのトイレなどの設備があるけれど、観客側には無かったなどの「ちょっと残念な事」なども特別支援学校の先生からお話がありました。また、野田聖子議員の基調講演「障害のあるお子さまの育成、医療的ケア児支援法について」では、ご自身の育児の事に触れながらのお話で、同じような子育てを頑張っている母としてもとても共感ができるお話でした。シンポジウムでは「東京オリンピック・パラリンピックから私達は何を引き継ぐか」と題して、バリアフリーの取り組みなどについて発言や報告があり、たいへん学ぶことの多い充実した1日になりました。

小牧の父母の会では、クリスマス会だけは、今年もなんとか感染症予防対策を充分行ったうえで、みんなの元気な顔が見られるように準備しています。来年こそは「日常」が戻ってくる事を願っています。(上田)

## 小牧市おもちゃ図書館きらら



▲「トコトコぶたちゃん人形」セットを袋詰めするメンバー。

コロナも収まってきた感がありますが、「きらら」としては安全第一に思い、慎重に事を進めています。おもちゃの貸し出しを再開するにあたり、先日大々的におもちゃの消毒・整理をしました。またみんなが安心しておもちゃと触れ合い、笑顔があふれる日を心待ちにしています。例年のようなイベント活動はまだ行えていませんが、10月16日のふれあいまつりに向けて、参加してくれた子どもたちのお土産用に、トコトコ動く指人形を130個作りました。喜んでもらえたでしょうか。12月19日（日）には、一年ぶりのピアノコンサートを予定しています。

ディズニーメロディー、懐メロ、クラシック、何でも素敵に演奏して下さるKAKERUさん。リクエストにも応えてくださいます。すぐそばでピアノの生演奏が聴けて、大人も子どもも夢のような世界に引き込まれます。万全を期して準備していきませんが、あとは実現できることを祈るばかりです。まだまだ不完全燃焼の日々が続いていますが、「きらら」メンバーは毎月集まって、前向きにまじめに話し合い活動を行っています。（船橋）

## ここばかりこまき

コロナの影響で中止もありましたが、7月26日にやっと対面とzoomの併用で会議ができました。ゲストに発達障害の子どもさんを育てられたふたりのお母さん（パパママサポートあおぞらとポプラの会）をお招きして、色々ご意見をいただくことができました。おふたりから「知ることは何よりの支援」「障害のことを知り、自分の子育ても大きく変わって子どもを褒められるようになった」「周りの理解で全然違ってくる」「学ぶことで本人の気持ちがわかってきた」「二次障害を防ぐためにも知ることがとても大切」ということや、「今の教育現場はみんなに同じことをさせるので普通から外れる子には大変だが、障害とわかると合理的配慮にもつながる」という話もありました。そして、障害のある人たちの言動には理由があるので「障害」についてもっと知ってほしいと言われました。

ここばかりこまきは今までもいろいろな形で知っていただく取り組みをしていますが、今回は関心を持ってイベントなどに来る人以外の、あまり関心のない人（知らない人）にも知ってもらえるような取り組みを考えてみることにしました。

それを受けて9月23日zoomで会議を行い、明石市の車内広告を参考に障害の方の色々な行動について知らせる広告やビデオ撮影・動画配信について等意見交換を行い、次回10月24日に続きの話し合いを行う予定です。（御手洗）



## こまき視覚障がい者の会

デジタル庁も発足され、世の中はいよいよICT化が加速していく中、視覚障がい者はどうなるのか？誰かが何かをしてくれるのでしょうか？そんなわけではなく、当事者が自ら考え、たちあがっていかねばなりません。そのためこまき視覚障がい者の会では、iPhone 講座とサポーター養成講座、悩みごとを相談できるおしゃべりサロン、「ぶらこまき」など情報発信のための広報誌作成に力を注いできました。しかし視覚障がい者が iPhone や PC を使いこなす便利になっても、それだけでは安全ではありません。白杖を使った歩行の正しい知識を習得することと、いざというときに助けてもらえる「人」の力がとても大切になります。そのため、当会では今年度助成金を受けて当事者に「歩行訓練」を推進するだけでなく、視覚障がい者の特性を市民の皆様にご存知いただき、サポートが受けられやすい環境を整えるソーシャルインクルージョン推進活動を行うことを目標としました。コロナによる活動自粛が続きましたが、緊急事態宣言が解除となった10月24日（日）小牧市中央図書館において、しきの会と合同で「パラリン EXPO」を開催することが出来ました。「さわる」「きく」「あるく」の各ブースを設け、見えなくても「楽しめる」世界を市民の皆様にご体験していただきました。午後からの歩行訓練土坂部司先生のトークライブでは、市民と当事者から質問が寄せられましたが、先生からの回答には「なるほど～」と教えられることがたくさんありました。当会では、このような体験型のワークショップを今後も展開していきたいと考えています。（水谷）



▲「パラリン EXPO」のトークライブで、白杖について説明する坂部先生。

■こまき視覚障がい者の会 facebook →

こまき視覚障がい者の会



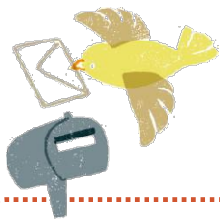
## しきの会

こんにちは！コロナワクチン接種も進み、治療薬の話もちらほら聞こえ始めましたね。しきの会は楽しいイベントを企画して障がい者と健常者がごちゃまぜになりながら“関わる”機会を作ること一番に考えていました。こども料理教室・・・バリアフリー音楽会・・・休みの国 EXPO・・・！！いつになったら以前のようなイベントを開催できるのだろうと機を伺っております。皆さん、忘れないでくださいね！

さて、12月11日（土）、去年同様に「こまき視覚障がい者の会」と合同でクリスマス会を開催します！場所はワクティブ小牧です。様々な楽器の演奏と歌をお楽しみください。お待ちしております♪

年が明けての1月末には『ハロー！福祉 パラリン EXPO』と題し様々なワークショップを企画しております。場所はこまきこども未来館です。体験型ワークショップを考えておりますのでぜひ、遊びに来てくださいね！！（ちょっと早いですが）2021年も皆様方には大変お世話になりました。来年もどうぞよろしく申し上げますね～。（関）

■しきの会ホームページに活動報告多数掲載！ → [shikino-kai.com](http://shikino-kai.com)



## お便りコーナー

日々の暮らしの中で感じたことや体験したことなど、みなさんからの便りをお待ちしています。気軽にお寄せください。

### こんにちは 賛助会員全障研小牧サークルです！



小牧市障害者団体連絡会通信は、いつも会員さんに配布しています。今回はサークルのことを少し報告させていただきます。

全国障害者問題研究会は、「どんなに重い障害があっても、人間は人間として限らない発達の可能性と発達への権利を持っている」という発達保障の考え方のもと、1967年、障害者とその家族、教育・医療・福祉などに携わる人たちによって生まれました。そして、各地域・各分野でサークルが発足して、小牧市においても1987年、障害児者や家族、関係者が手をつなぎ、地域の中で輪を広げ、将来への夢を語り、実現させていくことを課題にサークル活動を続けてきています。

発足以来、参加メンバーの入れ替わりはありますが、その時々困っていることを共有したり、解決に向けて話し合ったり、学び合ったり、そして、レクリエーションで交流したりしています。ここ2年間はコロナの影響で中止にすることも多かったのですが、年5回の通信は途切れさせることなく発行し続けていることが自慢(笑)です。

先日は福祉現場で働いている職員のみで学習会を行い、フェイスブック上の事例「入所施設内で入浴中に溺死したてんかん発作のある自閉症の息子さんの件」から、「安心・安全」な対応、私たち職員は生命を守るためにどうすればよいのかなど、現場状況を出し合いながら話し合いました。他の職場のメンバーと話せることや、職員だけでなく障害者や家族などが対等平等に参加して話し合えることが魅力です。秋には久しぶりにレクリエーションができるといいなと思っています(2年前には小牧市内の乗馬クラブで乗馬体験をして障害のある人たちと共に楽しみました！)。

(サークル歴 34年 M)

#### 【会員を募集しています】

小牧市のさまざまな障害者当事者団体、支援者団体がつながって、いろいろな障害のある人の立場を互いに知りあい、共同して市民に向けて発信していくことで、障害のある人も誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくことを目的に活動しています。活動に賛同していただける団体を募集しています。

■正会員(団体のみ、年会費2,000円) ■団体賛助会員(年会費1,000円) ■個人賛助会員(年会費1,000円)  
※賛助会員は、活動への参加は難しいけれど趣旨に賛同し、イベントへの参加や活動の周知等を通じて応援してくださる会員です。議決権はありませんが、イベント等のご案内を差し上げます。申込みは下記メールアドレスへご連絡ください。

小牧市障害者団体連絡会加入団体(50音順):正会員(7)賛助会員(5)

【正会員】犬山・小牧地域腎友会、ここぱりこまき、小牧市おもちゃ図書館きらら、こまき視覚障がい者の会、小牧市肢体不自由児者父母の会、小牧市難聴・中途失聴者協会、しきの会

【賛助会員】小牧市聴覚障害者福祉協会、小牧おひさまクラブ、手話サークルおてだま、手話サークルふたば、全国障害者問題研究会小牧サークルかざぐるま

小牧市障害者団体連絡会通信 2021年11月発行  
〒485-0811 小牧市光ヶ丘1-1 アクシス光ヶ丘4-403(山中)  
【メール】 mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp  
【ホームページ】 http://komaki-sdr.sakura.ne.jp

※視覚障害のある方へ  
ホームページに本通信の  
テキスト版があります。

